



日本の伝統文化に学ぶ

生徒のみなさんへ

● 能楽鑑賞体験授業 ●

本校は文化庁主催の「文化芸術による子供育成推進事業」に選ばれ、1年生が能楽（能と狂言）鑑賞体験授業を行いました。12月の本公演の前に、11月には能楽を身近に感じてもらうためのワークショップが行われ、能と狂言について解説をしてもらったり、全員で謡（うたい）やセリフを練習したりしました。休憩時には実際に舞台上で使用される能面をいくつも間近で鑑賞し、能面越しに見える世界を熱心にのぞき込む生徒の姿が多くありました。また、本公演では何人かの生徒に能の舞台に上がって演じたり、謡を披露したりするなど出演してもらうため、その練習なども行われました。



写真左上：礼に始まり礼に終わる。所作の基本から学びました。写真中央：プロジェクターを使い、能や狂言の歴史、能舞台や演目の解説を丁寧にしていただきました。写真右：たくさんの能面が展示され、実際にのぞき込むことができます。写真左下：能面をつけてもらった感想を懸命に説明する〇〇さん。

12月本公演のスタッフは、役者や囃子方（和楽器演奏者）、設営係などなんと総勢27名。また、体育館に能舞台をつくり上げるという大掛かりなものです。狂言は「柿山伏」、能は「鞍馬天狗」が上演され、役者の方々の発する声の独特の響きや、囃子方の奏でる和楽器の美しい音色は、目の前で演じられるからこそ、腹の底まで響いてくる素晴らしいものでした。緊張感ある空気の中に身を置いてこそ感じられる貴重な体験となりました。能においては、稚児役6

名と地謡役6名の生徒たちが舞台上がり、それぞれ堂々と演じることができました。



● 箏体験授業 ●

1月18日には2名の講師を招いて箏教室が行われました。この取組も文化庁主催で行われる芸術家の派遣事業であり、本校は幸いにも毎年選ばれています。初めて触る楽器を演奏することは難しいことですが、1年生の皆さんはあきらめることなく、集中力を持続して取り組むことができていました。箏の独特な音色や響き、演奏する微妙な速度、旋律が生み出す雰囲気を感じながら、子どもたちは演奏することを楽しめていたようです。2人ペアで活動し、互いに教え合いながら助け合っている様子も真剣そのものです。このように生徒全員が箏に触れ、演奏できる環境はなかなかありません。伝統文化を学ぶ大変貴重な経験となりました。



本校は2人に1台の箏が使える本市でも珍しい学校です。音楽科の佐々木先生と共に2人の講師の先生が全てのペアを順番に回り、丁寧に指導して下さります。どのペアも協力し合いながら、「さくら」を上手に演奏することができました。

ふたつの体験授業によって、皆さんにとって「わからないから興味ない、関係ない」という感覚から、「なんだかおもしろそう」と興味をもってくれることにつながったら良いと思います。日本の伝統文化は近くて遠い存在になりつつあります。時代の変化とともに、家庭や地域社会において伝統や文化について理解したり経験したりする機会が減っています。今回体験できた能楽や箏の他にも、華道や茶道、日本画、工芸など、長い年月を経て、日々の中で様々な形で伝わってきた価値あるものについて、あらためてその良さに気付いたり、発見したりする場は大切です。今回のような経験も含め、皆さんの感覚や感性をこれからも磨いて、皆さんが新たな文化を創る原動力になってくれることを期待します。そうすれば、伝統文化は未来へと連綿と受け継がれて生き続けるものとなります。

● 3年生クラスマッチ ●

12月7日には3年生にとって最後のクラスマッチが行われました。受験前に行われる、中学校生活最後の行事です。敵も味方も互いのプレーを讃え合い、励まし合うなど、終始清々しい雰囲気の中、大いに盛り上がる皆さんの姿は、とても微笑ましく、そして遅しくも感じました。これまで3年間で培ってきた皆との絆を、全身で感じられた青春の1ページとなったのではないのでしょうか。これからはこの絆を大切にして、受験を皆で乗り越えてください。



保護者の皆様へ ～今後の予定～

現在は全市的にも新型コロナに加え、インフルエンザが猛威を振るっています。学校においては、これまでの感染症予防対策を一層強めるとともに、子どもたちには免疫力を高めるためにも規則正しい生活を送るなど注意喚起を行っております。どうぞご家庭におかれましても、予防の取組等についてお子様にお声かけください。

- ・1月31日(火)3年生私立高校一般入試開始、1・2年生:定着度診断テスト
- ・2月1日(水)放課後:代議専門委員会 ・3日(金)15時:新入生説明会、6校時:3年生へ贈るコサージュづくり
- ・8日(水)5校時:1年生思春期健康教室、8日(水)9日(木)午後:3年生保護者会(給食あり)